

WEL・NET

通信

2018.11

- 特集 1 病院機能評価更新のご報告
- 特集 2 失語症の方へのアプローチ
- 地域リハビリ研究会・地域での研修・イベント情報 など

発行日 平成30年 11月 10日
 発行 西広島リハビリテーション病院
 事務局
 ☎ 082-921-3230 (代表)
 URL <http://www.welnet.jp>
 E-mail wel@welnet.jp

WELNET 通信は、西広島リハビリテーション病院の地域リハビリ・地域連携に関わる活動をご紹介します広報誌です

特集 1

病院機能評価 更新の認定をいただきました!



病院機能評価は、患者さんや地域住民の方が適切な医療を安心して受けることができるように、公正な立場の第三者が多方面に渡って病院の評価を行う事業です。公益財団法人 日本医療機能評価機構によって運営されています。

当院は 2018 年 10 月 5 日に本体審査・付加機能とも認定をいただきました。安全確保や質改善の取り組み、地域への情報発信、チーム医療による情報共有や在宅復帰への取り組みなど、多数の項目について高い評価をいただきました。



西リハの認定履歴

- 1999 統合版 Ver.3.0 認定
- 2004 統合版 Ver.4.0 認定
- 2009 統合版 Ver.5.0 認定
- 2010 リハビリテーション付加機能 Ver.1.0 認定
- 2013 リハビリテーション病院 3rdG:Ver.1.0 認定
付加機能 (リハビリテーション機能) : Ver.3.0 認定
- 2018 リハビリテーション病院 3rdG:Ver.2.0 認定
付加機能 (リハビリテーション機能) : Ver.3.0 認定

NEW!



どんなことが評価されるのですか？

主な評価項目は次のとおりです。
(リハビリテーション病院の場合)

- 1 患者中心の医療の推進**
患者さん・ご家族の意思を尊重した医療を行っているか、安全確保や質改善に取り組んでいるか、など
- 2 良質な医療の実践 1**・**3 良質な医療の実践 2**
診療・ケアの質、チーム医療が適切に行なわれているか、各部署の機能が適切に発揮されているか、など
- 4 理念達成に向けた組織運営**
病院組織の運営、職員の教育は適切に行われているか、労務・情報・文書・設備・危機管理は適切か、など

病院機能評価とは？



付加機能とはなんですか？

救急医療機能、リハビリテーション機能 (回復期) など、特化した項目を審査するものです。



認定病院や審査結果の情報はどこで見られますか？

日本医療機能評価機構が「病院機能評価結果の情報提供」ホームページにて情報公開をしています。認定病院を検索したり、審査結果 PDF (各項目の S・A・B などの評価も見られます) を閲覧することができます。

公益財団法人 日本医療機能評価機構「病院機能評価事業」・「病院機能評価結果の情報提供」ホームページを参考に作成

特集 2

失語症の方へのアプローチ

失語症は、脳卒中などによって起こる言葉の障害です。話すことが難しいと、閉じこもりがちになり、社会の中で孤立しがちです。失語症の方が話す楽しみを取り戻し、社会の中で生き生きと暮らしていけることを目指して、西リハでは機能の改善にとどまらない、さまざまなアプローチを行っています。



花の丘 言葉のデイケア

言葉のデイケアとは

花の丘の通所リハビリを利用されている方で、失語症または構音障害の利用者さんを対象としたサービスです。コミュニケーションが難しい方でもストレスなく安心して話せる場を提供することを一番の目的としています。個別リハビリ、グループリハビリ、そして「おしゃべり」が内容の3本柱です。



「おしゃべり」を楽しもう！

話すのが難しいと、どうしても閉じこもりがちになります。「おしゃべり」では自由におしゃべりをしてもらいます。そこで「あ、意外と話せるな」「こうやったらできるんだ」という感覚をつかんで、人と話す楽しさを感じてほしいと思います。人としゃべりたいという意欲が生まれると、社会参加につながります。会の雰囲気はみんなでワイワイしゃべっているという感じです。私自身も楽しもう、また、話せない人がいないよう気を配って、この場にいるみんなで楽しもう！ということをお心掛けています。



おたき ひろゆき
言語聴覚士 大瀧 浩之

＊ 毎週火・水曜日
花の丘通所リハご利用の方が対象
13:00～(約2時間)

介護老人保健施設 花の丘



言語聴覚士の役割

チーム医療の中で・地域の中で

西リハの言語聴覚療法の特徴

365日リハビリで、言語聴覚士の人数も充実している（16名が病棟配属・11月1日時点）、必要な方には毎日しっかりと言語聴覚療法を受けていただけます。

病棟全体で支える 患者さんのコミュニケーション

失語症の患者さんについては、言



語聴覚士が専門職の視点で意思疎通の方法を検討し、他のスタッフに提示します。また、その方法でどうだったか、フィードバックをもらって改善します。コミュニケーションカンファレンスを原則2週間に1回行って評価・検討・情報交換を行い、病棟全体で患者さんのコミュニケーションを支えられるよう努めています。

言語聴覚士会について

言語聴覚士会は言語聴覚士による職能団体で、当院は広島県の会の事務局を務めています。言語聴覚士への情報提供・相互交流・研鑽、行政・多職種団体との連携などに努めています。年に1度の言語聴覚の日



いまはし いくみ
言語聴覚士 主任 今橋 郁美

(9月1日)前後には、一般の方向けに言語聴覚士や言語聴覚療法について知っていただくイベントを開催するなど、地域社会への啓発も行っています。



入院中の方・退院後の方のつどいの場 メイプルクラブ

メイプルクラブとは

入院中の失語症の患者さん・ご家族と、退院された失語症の患者さん・ご家族のつどいの会です。2カ月に1回、本館2階ダイルムで行っています。最近は参加者が増えて、40～50人くらい来ていただくこともあります。グループに分かれ、各テーブルに言語聴覚士がついてサポートしながら話します。テーマは季節の話題や、入院中



の方のお悩み相談、退院された方からのアドバイスなどです。

生活の場からのアドバイス

最近は、せっかく退院された方がいらっしゃるの、家で自主トレやリハビリのお話をしてもらいます。入院中だと、言語聴覚士と話したり、カードで練習したりということになりますが、退院後の方からは「孫を相手に話す」「お客さんと話すときは言い間違いに気をつけるので練習になる」など、日常的なリハビリのお話が聞けます。入院中の方にとっては退院後の生活を具体的にイメージできると思いますし、退院後の方どうして共感し合ったりする場面も見られますね。



おかの つぐみ
言語聴覚士 岡野 つぐみ

＊ 2カ月に1回(第1土曜日)
14:00～15:00
西リハに入院中の患者さん・ご家族、退院された患者さん・ご家族が対象

医療法人社団 西広島リハビリテーション病院

地域リハビリ研修会



2018年7月～10月に実施した地域リハビリ研修会です！

当院は **地域リハビリテーション広域支援センター** です！

当院は、地域におけるリハビリテーション支援体制を推進するための施設として、広島県から指定を受けています。地域リハビリ活動の一環として、地域リハビリ研修会を年に5回程度開催している他、出前リハビリ講座の実施、区民まつりへの参加、広報誌やホームページ、退院患者統計での情報発信などを行っています。

全5回
シリーズいつまでも
自分の足で歩こう

介護が必要になる原因の1つとして、運動器の障害があります。運動習慣のない生活を続けていると、気付かないうちに骨や筋肉が衰えていき、やがて重大な運動器疾患につながることもあります。そこからは、歩けないから出かけない、疲れるから動かない…こうして、要介護状態へと進んでしまうのです。いつまでも自分の足で歩こう！ということは、健康長寿への第一歩と言えます。各専門職が、それぞれの視点でお話する、全5回のシリーズです。

- 1 運動器疾患の知識
- 2 筋力・バランスの向上
- 3 筋・骨に良い食事
- 4 元気を保つ歩行介助
- 5 元気を保つ口腔ケア

今回は1～3回のご報告です。

高齢者いきいき活動ポイント
対象講座です。地域リハ研修会
No.110

1

運動器疾患の知識

2018.7.28 (土) 14:00～16:00



シリーズの初回は導入として、骨粗しょう症や骨折が起こる理由、骨の新陳代謝に必要な栄養、運動器疾患の日常生活の影響についてお話ししました。関節の痛みや予防の説明では、健康食品としてよく見かけるコラーゲンやコンドロイチン、ヒアルロン酸の話題に笑いの起こる場面があるなど、和気あいあいとした雰囲気での講義が進みました。ダイエットとサルコペニア(筋肉が減少した状態)の関係、ロコモティブシンドロームの説明と共に、おうちでできる下半身の筋肉を鍛える簡単な運動をご紹介します。

地域リハ研修会
No.111

2

筋力・バランスの向上

2018.8.25 (土) 14:00～16:00



▲ご自宅でも運動が行えるように、様々なトレーニングの資料を配布しました。

歩けることは健康寿命をのばすことにつながります。第2回は歩行に欠かせない筋肉やバランスについてお話ししました。最初に10m歩行と片脚立ちを行い、ご自身の体力を知っていただきました。「大殿筋」「腸腰筋」「大腿四頭筋」の役割や鍛え方、バランス能力を向上させる「ながら運動のコグニサイズ」など、説明だけでなく実際に体を動かしていただき、活動的な研修会となりました。

地域リハ研修会
No.112

3

筋・骨に良い食事

2018.9.29 (土) 14:00～16:00



▲カルシウムが摂れる「スペインッシュオムレツ」や「サバのみそ煮缶と野菜の煮物」を試食しました。

歩行に必要な筋肉や骨を維持するために「食事」は大切です。第3回は「食事」をテーマに筋肉をつくる「タンパク質」、骨をつくる「カルシウム」それぞれの働きについてお話ししました。また、朝食を思い出しながらチェックシートで摂取量を確認していただき、不足を補うためにタンパク質やカルシウムの含有量の多い食品や吸収を助ける食材を紹介しました。栄養素が手軽に摂れるメニューの試食の時には「これ簡単でおいしいから良いね」とグループで楽しそうにお話しされていました。

第4回・第5回研修会のご報告は、次回のWELNET通信に掲載予定です。お楽しみに！

講師： 理学療法士 丸田 佳克
作業療法士 田中 貴史
受講者数： 39名

参加者の声

- 歩く歩幅・時間、握力を測定していただき良かったです。(一般参加者)
- 本を置いて行う大殿筋を鍛えるトレーニングを実施してみようと思います。(介護職)
- 歩行には股関節!! 大腸筋、腸腰筋の動きを知ることができました。(ご家族)
- 筋肉の部位の鍛え方と働きがわかりました。(ケアマネジャー)
- ウォーキングは健康長寿に役立つということが確信できました。(一般参加者)



参加者の声

- カルシウムとマグネシウム、ビタミンDなどの相乗効果について、勉強になりました。(一般参加者)
- 知らなかった便利な商品を提示していただいたので、早速利用しようと思います。(ご家族)
- タンパク質摂取量のチェック表を利用したい。それぞれの栄養素をバランスよく食することが大切である。



第9回 生活期・回復期連携推進会議

2018.7.12 石内福祉センター



佐伯区の地域包括支援センターが主催となって地域の在宅医療・介護連携推進のために進めている勉強会・意見交換会です。佐伯区内の医療・介護・居宅サービス等に携わるスタッフが参加しています。今回は「入退院時連携等において各専門職から見てきた利点と課題」をテーマに、事例報告・シンポジウムを行いました。当院からは山下浩一郎（医療相談員・副主任）がシンポジストとして参加し、回復期入院から生活期のスタッフが関わることで自宅退院へつながり、その後もご自宅での生活が継続している症例を紹介しました。その後、グループにて意見交換を行いました。

広島県社会福祉協議会 高齢者疑似体験

2018.7.13 広島県立広島観音高等学校



次代を担う子供達に介護や福祉への理解と関心を深めてもらうため、社会福祉協議会などが中心となって、さまざまな体験学習が行われています。このたび広島観音高校で開催された高齢者疑似体験講座にて、当院の小玉 暁（介護福祉士・副主任）が講師を務めました。参加者は足や腕に重りをつけ、腰を曲げて歩くなど体験し、「高齢者の方が普段どのようなことを不便に感じるのか分かった」「少しでも力になりたいと思った」等の感想が聞かれました。

広島県回復期リハの会 第1回研修会

2018.7.11 広島県医師会館



広島県回復期リハビリテーションの会では、年2回研修会を行っています。今回は「回復期リハビリテーション病棟のアウトカム向上のために何が必要か?～脳卒中を中心に～」をテーマに、宮井 一郎先生（社会医療法人大道会 森之宮病院 院長代理）にご講演いただきました。会員病院の職員を中心に、205名の参加がありました。2018年度改定ではアウトカム指標の強化が行われ、特に入院料1の実績指数設定はハードルが高いものになりました。目標指向型のチーム医療でアウトカムの向上を目指しつつ、短くなる在院日数に対しアフターケアにどう取り組むかが重要とのことでした。

平成30年度 第1回広島脳卒中地域連携の会

2018.7.25 広島市立広島市民病院



脳卒中地域連携の会は、脳卒中に関する医療・介護関係機関の地域連携を強めるための会であり、当院は事務局として中心的な役割を担っています。今回の会は広島市民病院にて開催され、180名の参加がありました。はじめに当院の丸田 佳克（理学療法士・副主任）より、地域連携パスの実績報告を行いました。続いて望月 マリ子先生（広島県介護支援専門員協会 副会長）より、ミニレクチャー「医療の時期から効果的な在宅支援のアプローチ」があり、最後に「医療の時期から考える生活期で見落とされがちな視点」をテーマにグループワークを行いました。

職員のメディア掲載・学会発表情報です。(2018年5月～10月)

※ 医師やスタッフの肩書き/氏名は掲載時点のものであり、現在は変更している可能性があります。

※ DR:医師 PT:理学療法士 OT:作業療法士 ST:言語聴覚士 RM:リハビリマネージャー NS:看護師 CW:介護福祉士 CP:臨床心理士 RD:管理栄養士

テレビ・ラジオ出演

- 2018.7.20 RCC 本名正憲のおはようラジオ
おはようフォーカス「災害情報&生活情報 高齢者災害リハビリ」
岡 光孝 (OT・地域連携部副部長)
- 2018.10.17 RCC テレビ イマなまっ!
ナルホーの扉「システムフレンドのナルホー」
田中 直次郎 (PT・リハビリ部長)

新聞・雑誌掲載

- 2018.8.4 中国新聞
くらし「失語症 育てサポーター」 沖田 啓子 (ST・リハビリ部顧問)
- 2018.9.22 中国新聞
大長寿時代の心配事 中泉 京子 (ケアマネジャー・とも所長)
「介護と育児のダブルケア・続けられるか不安」

外部講演・学会発表

- 2018.7.3 第4回看護リーダー・主任研修会
ICFを活用した看護展開 杉本 真理子 (NS・副院長・看護介護部部長)
- 2018.7.13 広島県社会福祉協議会 高齢者疑似体験
高齢者疑似体験 小玉 暁 (CW・副主任)
- 2018.7.13 第14回大分県回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 研修会
平成30年度 診療報酬改定のポイントと多職種協働 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2018.7.15 平成30年度 理学療法士週間事業 介護予防推進キャンペーン
健康寿命を延ばそう～体力測定と地域で取り組む介護予防～
藤高 祐太 (PT・副主任)
- 2018.7.25 第1回百歳体操交流会
健康寿命をのばそう!～いきいき百歳体操のポイント～
岡 光孝 (OT・地域連携部副部長) / 藤高 祐太 (PT・副主任)
- 2018.8.25-26 第9回 Stimulation Therapy 研究会 in 福井
回復期病棟におけるNEURO-15の実施について 漆谷 直樹 (OT・主任)
- 2018.9.1-2 第37回 日本臨床運動療法学会学術集会
フィットネスジムにおけるメディカルチェックの効果および意義について 伊藤 三千雄 (健康運動指導士)
- 2018.9.7 平成30年度 全国自治体病院協議会 リハビリテーション部会研修会
平成30年度 診療報酬改定のポイントとリハビリテーション医療のこれから 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2018.9.14-16 第18回 日本音楽療法学会学術大会
高次脳機能障害により「気づき」の低下を認めた患者に、ギターで治療的楽器演奏を行い、ギターの趣味を再獲得した症例 佐々木 萌子 (MT)
- 2018.9.15 兵庫県看護協会地域別ネットワーク事業 医療安全研修会
チームで取り組む医療安全 杉本 真理子 (NS・副院長・看護介護部部長)
- 2018.10.3-4 リハビリテーション・ケア合同研究大会 in 米子 2018
広島市における地域リハ広域支援センターとしての取り組み～地域づくりを目指して～ 岡 光孝 (OT・地域連携部副部長)
- 馴染みの作業である「お茶会」を通して主体的な生活を展開した症例 青野 颯希 (OT)
- 脳血管疾患により失調症状を呈した患者へリズム歩行を実施し、歩行が改善した症例 大瀧 智陽 (MT)
- 脳梗塞、脊髄損傷により四肢麻痺を呈し入院時細胞量が減少していた患者に対し栄養介入と積極的運動療法にて改善が得られた一例 中臺 久恵 (PT)
- ギラン・バレー症候群により眼筋運動障害を呈した症例に対する治療経験 中臺 久恵 (PT)
- 探れば分かる!失敗の原因!～チームで減らす!排泄の失敗を防ぐ取り組み～ 持田 あい (CW)
- 2018.10.6-7 第8回 日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会 in 大分
シンポジウム「歩行再建戦略とロボット活用」 松下 信郎 (PT・主任)
- 2018.10.12-14 第7回 リスクマネジメント研修会
KYT ワークショップ 杉本 真理子 (NS・副院長・看護介護部部長)
- 2018.10.13-14 第16回 日本運動処方学会大会
フィットネスジムにおけるSpeech Fitnessの可能性について 伊藤 三千雄 (健康運動指導士)
- 病院併設のフィットネスジムにおける管理栄養士の取り組みと今後の展望 瀧 彩華 (健康運動指導士)
- 2018.10.16 佐伯区介護支援専門員 自主勉強会
医療・介護報酬同時改定に伴うリハビリテーションプランの考え方 岡本 隆嗣 (DR・病院長)

専門雑誌・書籍

- 2018.6.1 看護ひろしま (公益社団法人広島県看護協会) No.219-6
新人からのがんばる宣言 小野 里紗 (NS)
- 2018.7.1 BRAIN NURSING (メディカ出版) vol.34 No.7 p77-80
特別企画 リハ領域における2018 診療報酬・介護報酬同時改定のポイント 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2018.7.5 月刊DAY No.224 No.7 p20-23
脳卒中後のご利用者を中心とした短時間通所リハ 吉野 高博 (事務・統括本部長) / 岡 光孝 (OT・地域連携部副部長)
- 2018.7 一陽会広報誌 あさひ 第58号 p.5
連携病院のご紹介 vol.4 ～地域連携室より～
岡 光孝 (OT・地域連携部副部長) / 鈴木 恭子 (NS・看護介護部部長) / 樽井 和彦 (MSW・主任) / 山下 浩一郎 (MSW・副主任) / 石見 智子 (MSW) / 杉谷 沙耶香 (MSW) / 豊永 亜里沙 (MSW) / 森澤 美穂 (MSW)
- 2018.8.5 月刊DAY No.225 No.8 p79-81
言語障害に対するデイケアの新たな取り組み 大瀧 浩之 (ST)
コミュニケーションを促すグループリハビリテーション
- 2018.8.29 case Report in Neurology 2018;1 p223-231
Low-Frequency rTMS and Intensive Occupational Therapy Improve Upper Limb Motor Function and Cortical Reorganization Assessed by Functional Near-Infrared Spectroscopy in a Subacute Stroke Patient 漆谷 直樹 (OT・主任)
- 2018.9.1 PT・OT ビジュアルテキスト 専門基礎 リハビリテーション医学 第1版
p.38-41 各ステージにおけるリハビリテーション医療とその特徴 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- p.381-391 生活習慣病 松下 信郎 (PT・主任)
- 2018.9 浜田医療センター情報誌スマイル&ハート vol.45 p.8-9
シリーズ医療機関のご紹介
「患者さんが主役」のリハビリテーションを目指して 岡 光孝 (OT・地域連携部副部長) / 鈴木 恭子 (NS・看護介護部部長) / 吉野 高博 (事務・統括本部長)
- 2018.10.25 作業療法ジャーナル 11月号 (三輪書店) p.1229-1234
回復期リハビリテーション病棟における「心身機能・身体構造」の作業療法 一脳血管障害を中心に 白岡 幸子 (OT・教育部門主任)
- 2018.10.26 Asian Journal of Occupational Therapy 14: 43-52, 2018
The Impact of NEURO-15 on Performance Skills and Related Factors in Activities of Daily Living in Patients in the Chronic Phase of Stroke
山根 伸吾 (OT・広島大学大学院医歯薬保健学研究所・当院非常勤職員) / 漆谷 直樹 (OT・主任) / 玉代 浩章 (OT・副主任) / 久留嶋 崇史 (OT・副主任) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長) / 共著者は当院職員のみ掲載
- 2018.10.31 回復期リハビリテーション病棟協会機関誌 2018年10月号 p.12-17
特集1 回リハ病棟 多職種で取り組む業務プロセス—
先駆3病棟の病棟運営・協業「西広島リハビリテーション病院」
田中 直次郎 (PT・リハビリ部長)

チーム紹介!

佐伯区民まつり チーム

今年の区民まつりは11月11日です。
今回も、健康運動指導士・管理栄養士・
リハスタッフなどで、ブースを出展予定です!



昨年の様子 ▲

去年は来訪者数最高記録
(192名)でした!

伊藤 本当に盛り上がり
て、あのテンションでよく
大きな問題もなく終われ
たなと(笑)しっかり準備
したのと、チームワークが
良かったんだと思います。

今年の企画は…?

伊藤 毎年恒例のBOC
A(体組成測定)に加えて、
ロコモスキャンという、下
肢の筋力を測る機械を
持って行くかと思っていま
す。測定に時間がかかるか
ら全員にやってもらおう
は難しいけど…

岩淵 リピーターさんも
多いのでできるだけお断
りしたくないですね。
影山 時間がかかるもの

は予約制にして、別々にし
たらどうかな?

瀧 体脂肪が気になる方
はAコース、筋肉量を測り
たい方は予約制でBコー
ス、みたいな感じですね。

影山 管理栄養士の簡単
健康レシピも、新しい内容
で作る予定です。

瀧 スキムミルクを使っ
て、簡単に作れて筋力UP
に役立つお菓子とかはど
うかな?と考えています。
伊藤 あとは…早くメン
バーが決まって、詳細を話
し合えたらいいね。

岩淵 企画と並行して、メ
ンバーも募集中です。

※10月18日時点のインタビュー
です。出展内容は変更になる場
合があります。

医療法人社団朋和会 基本理念

信じ合い、明日を拓く^{ひら}

私たちは「信じ合い、明日を拓く」という言葉を基本理念としております。

「信じ合う」という言葉は、患者さんと職員との信頼関係とともに、職員間の信頼関係をも含んでおります。理想的なリハビリテーションは、ひとりの患者さんを中心に全スタッフが取り組むチーム医療が原点です。たしかな信頼関係のもと、全職員が心をひとつにして治療に取り組めばそこには安心感が生まれ、患者さんに、より大きなご満足をいただけるものと信じております。

「明日を拓く」という言葉は、現状に満足することなく未来へ向けて挑戦したいという私たちの願いです。超スピードで進化する医学の流れをしっかりと見つけ、フロンティア・スピリッツを胸に、どんな困難にも立ち向かっていきたいという気持ちをこの言葉で表現しました。

「信じ合い、明日を拓く」この言葉をいつも大切に考え、患者さんやご家族の皆さん、受診者の皆さんにご奉仕し、地域社会の発展に寄与していきたいと心より願っております。

医療法人社団 朋和会
初代理事長 岡本則昭

医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院

〒731-5143 広島市佐伯区三宅6丁目265番地
TEL: (082) 921-3230 (代表)
FAX (082) 921-3237 E-mail wel@welnet.jp
URL <http://www.welnet.jp/>

★ 理事長・病院長: 岡本 隆嗣



★ 広島中心部より車で約30分 ★ 広電薬々園駅より車
で約10分 ★ JR五日市駅南口よりバスで15分

